

2 2 重点事業評価

事業名

くらしとしごとに役立つ図書館機能の充実

(1) 事業の概要

対象（誰を・何に）

これまでの県立図書館が得意としていた専門的な資料に加え、くらしやしごとなどの日常生活に役立つ資料を求めている潜在的な利用者

意図・目的（どのような状態になることを狙っているのか。結果どうなるのか。）

旧来の蔵書を中心だった専門書、研究書に、しごとやくらしについての実用書、ビジネス書、写真中心のカジュアルな資料、音声（CD）資料など、女性向け雑誌などを加えることで、日常生活に役立つ図書館としての機能を充実させる。

具体的取り組みの概要

「くらしガーデン」をリニューアルし、これまで備えていた料理や健康、ガーデニングなどの資料に加え、レジャー、ハウジング、美容などにテーマを拡大する。「しごとビジネスコーナー」において扱うテーマを拡大し、政治など時事的な話題を扱う資料を加える。

くらし応援講座として日本酒を取り上げ、連続セミナーを開催し、図書館利用者以外の人からも関心を呼んだ。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）
実用書、ビジネス書、写真中心のカジュアルな資料、音声資料、女性向け雑誌の合計配架冊数	10,000点

(3) 事業評価（自己評価）

A 目標が十分に達成された

B 目標がある程度達成された

C 目標の達成が不十分である

D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	評価	理由
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か	A	昨年度よりの取り組みで、県民の実生活に密着した課題解決機能整備を進めていたが、大幅な利用増によっても、ニーズへの合致が確認された。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか	A	本年度の達成目標数値を2割上回る12,148点の資料を配架した。資料数だけでなく、資料の幅と種類を広げたことが「利用される図書館」へのイメージチェンジに貢献した。音声資料（CD）の導入も効果的であった。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等	A	特定の利用者層を意識した重点的な資料配分と資料配置により、効率的な機能強化が実現した。「友の会」やボランティアとの協働も、適切に機能した。
総合評価（成果）	総合的な評価	A	「くらしガーデン」「第2のオフィス」とも、堅調に利用が拡大しており、課題解決型図書館への改革が着実に進行している。取り組みにより、更に機能充実の可能性がある。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

機能の充実には、資料の「新しさ」と多様性が不可欠であり、システム更新時における重要課題とする。協働の取り組みの展開やイベント活動の一層の充実など、付加価値的な取り組みを計画的に展開する。

(5) 図書館協議会意見

達成目標を超えた点では、自己評価通りの評価でよいが、それ以上に、図書館の雰囲気を変えることに大きく貢献している点を評価する委員が多かった。

例えば、明るく、あたたかみのある空間であるところが、まず、素晴らしいという意見や、コーナーを充実させたことで、県立図書館のイメージが大きく変わり、気軽に足を運べるようになったと思うという意見、くらしガーデンを再リニューアルして、利用したいという気持ちをそそる配置となり魅力的になったという意見があった。

さらに、選書方針・サービス方針等適切であり、利用者のニーズに合っている、講演会等の開催については、非常に高く評価したい等、運営も適切であるとの評価である。

なお、協議会委員からは次のような意見・要望が寄せられている。

- ・数々の楽しそうな講座には、近い方ばかりでなく、遠くからの参加者も増えるよう期待したい。
- ・新潟の歴史・音楽・文学・美術・自然に関わる新鮮な話題を発掘し提供する講座の充実を望む。
- ・人気があるからといって図書館で「酒」に関する講座ばかり行うのはどうか。
- ・相談日を設け、街のエキスパートから相談員、ボランティアを発掘してはどうか。
- ・県庁職員が頻繁に利用する仕組みを作るべきである。
- ・ビジネス支援として県民が何を求めているか、どんな情報をほしがっているのかりサーチしてほしい。例えば企業等を周り、インタビューを行ったらどうか。
- ・音声資料（CD、特に講演録、文芸作品の部類）は、今後も予算に応じて充実を図って欲しい。
- ・CD等について、エンターテインメント系よりは、趣味・実用・ドキュメンタリーなどの収集を考慮していただきたい。